

# 芸術

みどころ  
コラム

市民ギャラリー企画展

## 心に響く風景画の魅力

今回、紹介する企画展「心に響く風景画の魅力」は、地元ゆかりの作家を中心に、水墨画、日本画、洋画の中から、独自の画法や画風で表現している風景画作品を展示します。

明治20年（1887）に、碧海郡桜井村（現安城市桜井町）に生まれた高須芝山は、幼少期から絵を描くことが好きでした。明治40年に豊橋連隊に入隊、除隊後は銀行員として働きますが、画家への希望を断ち切れず、単身上京し、南画の小坂芝田に弟子入りします。大正7年には、文部省美術展覧会（文展）に初入選し、帝国美術院美術展覧会（帝展）には大正14年、昭和3年、昭和5年と入選を果たしました。戦後、昭和23年に桜井村に新居を構えますが、晩年の昭和32年からは東京都杉並区へ移転しました。この住宅も昨年取壊すこととなったため、所蔵されていた作品の一部の寄贈を受けることとなり、今回その作品をご覧いただきます。

の見識からも、芝山の作品を選出したことは、作品の評価に値することだと思われまふ。また、安城の有識者も名を連ねていることから、戦後の厳しい時代の作家活動は地元の人々の多大なる協力に支えられていたことがわかります。



高須芝山《深谷高林》

令和2年1月31日（金）2月15日（土）  
市民ギャラリー D・E 室  
入場無料  
月曜休館

問い合わせ 77-6853  
市民ギャラリー

# 文化の花園にようこそ

問い合わせ

安城文化協会事務局 74-6066  
市民ギャラリー 77-6853

## 文化協会選抜展（文人展）を見に来ませんか？ ～文化協会所属の代表作家の作品展を開催します～

◎日 時 令和2年2月7日（金）～9日（日）  
午前9時～午後5時（最終日は午後4時まで）  
◎場 所 文化センター 大会議室（3階）  
◎出品作家（予定）※敬称略  
（日本画）戸田静子、香村愛子、服部一代、神谷恒行、加藤むつ子、神谷かのゑ、牧るみ子、平下芳子  
（水墨画）内藤華岳、杉山華仙  
（洋画）丸山今朝三、杉浦辰子、西村しげひろ、吉村豊太郎、石川清幸、峯村敏、近藤義行、服部八千代、鈴木公子、野村郁夫  
（書）横山夕葉、神谷采邑、柴田秋水、齋藤祥華、笠原喜美江、齋藤清川、柴田千霞、神谷光園、天野月祥、神原竹英、山下祥石、高井香園  
（写真）神原勇治、杉浦正行、細井哲雄、大原尚石、岡田巳吉  
（工芸）待田和宏、加藤克也、鶴田裕子、大参富士子、平松弘子、浅野正人、加藤伴子、山本昌子、神谷明美、鈴木さき子  
（特別出品）市長、議長、教育長他

◎文化協会では、会員を募集しています。個人でも加入ができ文協祭に出品できます。

連絡先 安城文化協会 74-6066

## 文化グループ紹介 芸能 あすなろ琴の会

私達は、毎年4月に開催される琴伝流大正琴の全国大会に、他のグループに混じって出演しています。その中で近年、特に印象に残っている大会は、平成29年「東京NHKホール」での演奏です。

そう、毎年の大晦日恒例の「NHK紅白歌合戦」が行われる会場です。このように、毎年色々な場所で開催される全国大会は、北は北海道から南は沖縄まで、全国から出演者が集い楽しく演奏します。私達は、この先いつまでも元気で大会に参加できることを願ってやみません。

大正琴に関心のある方、入会を希望される方は、気軽にご連絡ください。

連絡先 山本久子 99-1453



# 文化財ジャーナル

vol.52

## そもそも神社とはどんなところ？

神社とは、神道の神々が祀られているところです。安城には主に神明社、八幡社、白山社、天神社、八剱社、日吉系社、市杵島社、熊野社、稲荷社、その他の神社を合わせて五十三社が鎮座しています。



▲写真1 神明宮（河野町）



▲写真2 八幡神社（根崎町）



▲写真3 上条白山媛神社（上条町）

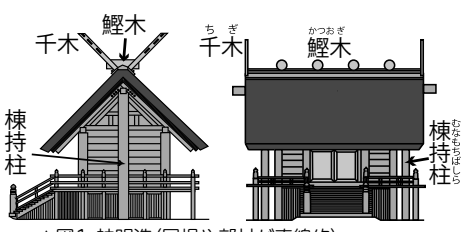
東海地方は八幡社・神明社・白山社が多い傾向にあり、安城でも同じ傾向が見られます。

## そうだ、神社へ参ろう。

もうすぐ令和最初の年末年始を迎えようとしています。近くの神社へ参拝される方も多いのでは。参拝の折、建物をじっくりご覧になったことはありますか？今回は、ぜひ皆さんに知っていただきたい神社建築のお話です。

## 神社の建物

神社の建物には、主に拝殿と本殿があります。拝殿は、本殿の手前にある参拝者が礼拝する建物です。その奥にある本殿は、御神体を安置する重要な建物です。覆殿の中に収まっている場合もあります。本殿はその形からいくつかの形式に分類されますが、安城で見られるのは、主に「神明造」（図1）と「流造」（図2）です。神明造は日本古来の神社建築に用いられた形式で、伊勢神宮（三重県）や系列神社の建物に採用されています。安城では、箕輪町神明社や河野町神明宮などがあります。「流造」は全国で最も普及している形式で、上賀茂神社（京都府）などに採用されています。安城では、上条白山媛神社（写真3）や根崎町八幡神社などがあります。



▲図1 神明造（屋根や部材が直線的）

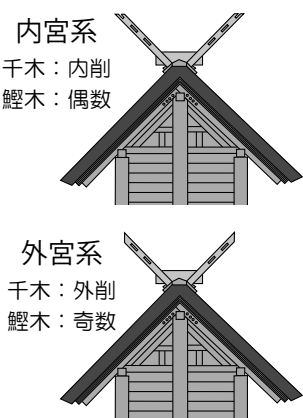


▲図2 流造（屋根が曲線を描く）

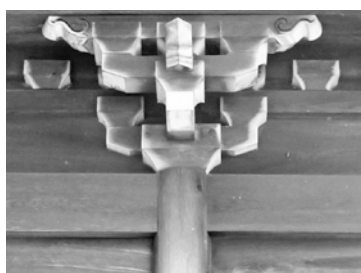
## 神社建築は見所がいっぱい！

安城の各地域に鎮座する神社には、建物の新旧に関わらず、よく見ると「！」と思える発見がいっぱいあります。

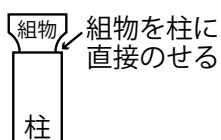
「1」神明造の本殿は、檼木の数や千木の形で内宮系・外宮系がわかる（図3）。



▲図3 神明造の屋根



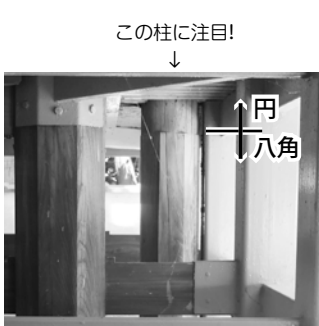
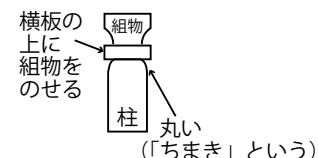
▲写真4 ①日本古来の工法



②鎌倉時代から普及した工法は、柱の頂部付近が丸く造られ、横板をかませて組物を乗せる。中国に由来する（写真5／山崎町神明社）。



▲写真5 ②中国由来の工法



▲写真6 縁の下の柱  
いかに効率的に建物を建てようとしたかが推察できます。

「4」式年遷宮を絶えず行っているのは伊勢神宮のみ。20年毎に新しい建物となるため、正殿などは文化財指定されていない。

今回紹介したことに限らず、神社建築は装飾など宮大工の技巧が凝らされた部分が随所にみられ、建物としての魅力が満載です。神社へ参拝される時、ちよつとだけ建物に注目してみてください。いつも見ている建物が、少し違って見えるかも。

問い合わせ

文化振興課埋蔵文化財センター内  
77-4477